

第1編 管内概況

1 管内概要

津保健所の所管する津市は、三重県の中央部に位置し、面積は約710km²と県内市町では最大で、人口は平成18年1月1日の平成の大合併前は約16万人と全国の都道府県庁所在地の中で最小でしたが、津市と久居市、安芸郡（河芸町、芸濃町、美里村、安濃町）一志郡（香良洲町、一志町、白山町、美杉村）の10市町村が合併した結果、現在は、全国47都道府県庁所在地人口全国38位（2013年4月1日現在の自治体構成）で四日市市に次ぐ県下第2位の市人口となりました。

津市は、ローマ字表記ではTsuですが、ギネスブックにはZとして一文字で登録されており、世界一短い地名として記載されています。また、同様に津駅も世界一短い駅名として記載されています。

歴史的には、古くは安濃津として広く知られ、平安時代には文献にも登場する良港でした。

平安京にとっては重要な港で、安濃津は、「津」とも呼ばれ長く繁栄していましたが、明応7年（1498年）の明応地震の津波で港は完全に崩壊してしまいました。

江戸時代は、津藩藤堂氏の城下町で、江戸時代の外交文化使節「朝鮮通信使」をまねた「唐人踊り」が伝承され（三重県の無形文化財）、毎年秋に行われる津まつりには華々しく披露されています。

津市は、古くから伊勢おかげ参りの宿場町として栄え、伊勢音頭の「伊勢は津で持つ、津は伊勢で持つ、尾張名古屋は城で持つ」とも歌われています。

(1) 管内略図（三重県津市）



